

令和8年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第3号（6月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年5月28日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○6月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
カンシヨ	① エビガラスズメ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	②				
さとっきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ) (株出し)	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② バッタ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
(温州かんきつ)	① そうか病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
(タンカン)	① かいよう病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンガ	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
オクラ	① フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② チョウ目幼虫	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カンシヨ	トリバ類	幼虫が葉を食害する。多くのほ場で発生が見られた。発生初期の防除が有効であるので被害葉が出はじめたら、早期防除に努める。また、収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるためほ場外へ持ち出す。
さとらきび	黒穂病	沖縄本島中部地区の一部ほ場で発生が確認された。 胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。 発病の多いほ場では株出し栽培をせず更新する。
かんきつ	カイガラムシ類	一部のほ場でカイガラムシ類の発生が見られた。果実に発生すると、排泄された甘露にすす病が発生したり、定着した部分が着色不良、肥大阻害を引き起こすことで、外観が損なわれるため商品価値を低下させる。低密度に抑えるため、早期発見・防除に努める。
マンガ	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
オクラ	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

令和8年度 宮古群島 病害虫発生予報 第3号（6月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年5月28日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○6月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		5月の発生量 (平年比)	5月からの 増減	6月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンジャシクイハマキ・イネヨトウ) (株出し)	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	② バッタ類	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移(→)
オクラ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② アブラムシ類	並	↓	並	平年の発生量の推移(↓)
	③ フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	④ チョウ目幼虫	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	複数のほ場で発生が確認され一部ほ場で多発している。 胞子の飛散を防ぐために発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。 発病の多いほ場は早急に更新する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	マンゴーハフクレタマバエ	一部施設でマンゴーハフクレタマバエの被害が見られた。 本種は繁殖スピードが早く、また幼虫の脱出痕から炭疽病等に感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。
ニガウリ (施設)	実腐病・黒かび病	実腐病は、うどんこ病の罹病葉などの衰弱した葉から朝露などを介して果実に感染する。黒かび病は罹病果実や花弁からの感染が知られる。いずれも梅雨時期など高温多湿時の発生が多く、輸送中に果実腐敗を引き起こす。罹病果実を圃場外に除去するとともにうどんこ病の防除に努め、摘葉やハウス管理により日当たり・通風をよくする。
オクラ	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

令和8年度 八重山群島 病害虫発生予報 第3号（6月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年5月28日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○6月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠	
		5月の発生量 （平年比）	5月からの 増減	6月の発生量 （平年比）		
さとうきび	① メイチュウ類 （カンシャシクイハマキ・イネヨトウ） （株出し）	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）	
マンゴー	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）	
オクラ	① うどんこ病	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）	
	② アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）	
③ フタテンミドリヒメヨコバイ		並	↗	並	今後1か月の気温が平年より高い見込み	
④ チョウウ目幼虫		やや少	↗	並	平年の発生量の推移（↗）	

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	一部ほ場で発生が確認された。胞子の飛散を防ぐため発病株は早めに抜き取り、袋に入れてほ場から持ち出して処分する。新植への感染を防ぐため発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。発病の多いほ場は早急に更新する。
	カンシャワタアブラムシ	一部ほ場で発生が確認された。多発するとすす病を併発し生育を阻害するので、葉裏を確認して初期防除を徹底する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	マンゴーハフクレタマバエ	一部施設で新葉にマンゴーハフクレタマバエの被害が見られた。本種は繁殖スピードが速く、また幼虫の脱出痕から炭疽病等に感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。
オクラ	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。葉を中心に茎、花蕾、果実も食害する。登録農薬のうちベイト剤は使用方法に留意し、作物にかからないようほ場周辺に処理する。茎葉に移動したカタツムリ類は捕殺に努める。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。